

問3 以下の3問の中から1つを選択し、400字程度で答えなさい。

(20点)

(A) 林 竹二 (※) は、授業における教師、子ども、教科書・教材の関係・役割について次のように述べている。この林の考えに対するあなたの見解を述べなさい。

「教科書を教えるのが教師の仕事であった時代には、教科書は神聖であった。だが、教科書で教えるのが教師の任務だということになると、教科書、教材は道具であり手段にすぎない。教師は子どもの深く蔵した宝を掘り出すために、最も適切な道具を選択する。教材は、この道具なのです。教師は十分にこの道具を駆使して、子どものなかに深くしまいこまれている力を引き出す作業に従事しなければならない。これが授業で、教師の本来の仕事なのです。」

(林竹二『林竹二著作集 第VII巻 授業の成立』筑摩書房、1983年、235頁)

※林 竹二：1906-1985、教育哲学者、宮城教育大学第2代学長。『授業・人間について』『教育の根底にあるもの』など著作多数。元小学校教員で『兎の眼』『太陽の子』等の作家・灰谷健次郎との対談集『対談 教えることと学ぶこと』（小学館）もある。

(B) 次の記事を読み、その授業や生徒たちの学びの様子が日本の学校における授業や学びのあり方にどのような課題を投げかけているとあなたは考えるか、2点にまとめ述べなさい。

OECDの学習到達度調査 (PISA) で「世界一」の評価を受けるフィンランドの首都、ヘルシンキ市中心部に近い中学校。ある授業では、先生が練習問題の答えを説明中だというのに、教室後方の女子が手招きすると、男子が席を立てて近寄った。先生は何も言わない。このクラスではわからないところがあったら、まずは生徒同士が教えることになっている。「一人ひとりが何ができて何ができないのかを自覚することが大事。出来ない子を教えれば、より理解を深められる」と先生。同国では標準的な考え方だ。学校や生徒をテストでランク付けする仕組みがない同国では、高校進学に影響する中学3年の成績を除き、成績をつけるための明確な基準もない。数学が得意だというAくんは「競争ではなく、自分がやりたくて、できるようになりたいから勉強している。数学が苦手な友達を助けてあげるのはいいこと」と話す。

(設問上、一部省略等。出所：<http://www.asahi.com/edu/news/TKY200412190095.html>)

(C) これからの学校における教育方法・技術のあり方を考える上で、以下の実験結果からあなたが特に示唆を受けた点について述べなさい。

半世紀近く前、とある学校を訪問した著名な大学の研究者たちが潜在的な学習能力を測るテストなるものを実施し、そのなかの上位の子どもたちを2割程度リストアップして同校の教師たちに伝えた。しかし、そのリストはテストの成績等にもとづくものではなく、まったくランダムに抽出されたただけであった。にもかかわらず、これから伸びると予想 (期待) された子どもたちはその後のテストの成績やIQ (知能検査) 結果が選定外の子どもたちと比べて大きな伸びを示したという。教師期待効果 (ピグマリオン効果、ローゼンソール効果とも言う) としてよく知られるこの実験は、子どもの能力等に対する教師の期待と子どもの能力の発揮や成績向上との関係が深いことを示している。

(この実験に興味を持ったなら、ロジャー・R・ホック編『心理学を変えた40の研究』ピアソン・エデュケーション、2007年、118～126頁を参照されたい。)

(以上)